2019 年度　第 39 回日本看護科学学会学術集会

若手研究者活動推進委員会交流集会のご報告

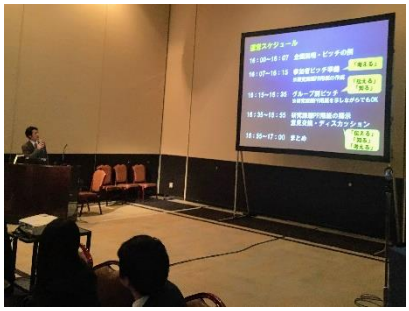
2019 年 11 月 30 日 - 12 月 1 日に金沢市で開催された学術集会において、若手研究者活動推進委員会主催の第 7 回交流集会を行いました。今回のテーマは、主に若手研究者が、研究課題や研究理念の共有を通して、研究をさらに発展させるための仲間づくりの一助になればと考え、参加者の研究活動の PR と意見交換を重視した交流集会を企画いたしました。

【　交流集会テーマ　】
新たな仲間との協働でさらなる高みを目指す
「看護学ピッチ（pitch）をやってみよう」

ピッチとは、他者の興味関心や反応を引き出すために、初見の相手や不特定多数の聴衆に新しい概念やアイデアをごく短時間で伝えようとする方式を指します。今回は、参加者が 5～6 名ずつのグループに分かれ、全員が自身の研究について 3 分間のピッチを行いました。このピッチによって、研究について自身が迷いを抱えている箇所が浮かび上がったり、他者のピッチを聞くことで研究のヒントを得ることができたりしていました。

ピッチ後の意見交換では、多職種・多分野と連携した研究の必要性や、看護を説明するためのデータの可視化といった発展的な意見が出されました。一方、研究と臨床との乖離や看護の在り方･位置づけの不明確さなど、看護と研究に真摯に向き合い悩む若手研究者の姿も見られました。

今回、「看護学ピッチ」を行うことによって、自身の研究とその土壌である看護について、改めて「考える」「伝える」「知る」機会をもつことができたようです。最後に仲上委員長より、自身の研究について自分が取り組み意味を問いかける言葉が紹介されました。この出会いをきっかけに、研究者同士の交流や、分野を超えた研究活動に繋がることを期待しております。



参加者アンケートからのコメント（一部を改訂して抜粋）

- 非常に楽しく、あっと言う間に終了時間になりました。もっと長くみなさんとお話ししていたかったです。
- 参加しなければお話しすることがなかったと思うので、貴重な機会をありがとうございました。来年も楽しみにしております。
- 若手同士の交流も重要ではありますが、普段関わることのできない先生方との交流の機会があると嬉しく思います。